

入試おつかれさま、 君は十分、よくがんばった。

フェイマスアカデミー代表

福嶋淳史

第一志望合格が、かなわなかったキミへ。

結果は希望通りにならなかったが、君がこの数年間頑張ってきた受験生活は、決してムダにはならない。むしろ、キミにとって今後の大きな財産となるだろう。それを誇りに思ってもらいたい。そして、次なる目標に向かって走り始めてほしい。

結果はもちろん重要だが、大切なのは結果だけじゃない。

キミがこの失敗・挫折から得たものは計り知れないんだ。

それをもう一度、よくかみしめよう。

君は、塾の先生や親からの教えを守って、本当によくがんばってくれたと思う。しかし、私たち大人の力の至らなさにより、きちんと教えを守ってくれたにもかかわらず第一志望に合格させてあげられなかったことは、非常に申し訳なく思っている。

けれど、もう、誰かのせいにするのはやめよう。

塾の先生たちも、キミたちも、家族も、みんな、そのときそのときにできる最高の選択をしてきたんだ。合格するためにはどうすればよいかを常に考え、実行してきたじゃないか。

完璧ではないが、これで完全なんだ。

人は失敗からしか学べない。

私もおよそ 35 年前 1985 年の冬、中学入試に挑みました。

そして予想外の失敗を重ねました。

2月1日にインフルエンザにかかってしまったのも理由ですが、おそらく実際のところは実力不足だったのでしょう。日能研に3年間通い、栄光・浅野・芝・桐蔭など、受験した7校ほぼすべてに不合格となりました。合格したのは当時まだ名も知れていなかった攻玉社と日大第三だけ。

日大三中にはトップ合格していたらしく、校長から直々に「全額免除して医学部に推薦を出すからぜひ我が校に来てほしい」と言われました。そのときの面談の様子は、今でも覚えています。

ところがそのとき私の母親は変なプライドをもっていたのか、その誘いを断ってしまいました。

今思えば、あのとき日大第三に行っていたら医者になっていたかもしれません（笑）。

攻玉社を受験することになったときには、私は泣き叫びました。

「そんな会社みたいな変な名前の学校には行きたくない！」と。

でも、合格して日能研の先生から「攻玉社合格おめでとう！よく30人のなかの5人に入ったね」と電話でいわれ、だんだん攻玉社も悪くないのかも、と思い始めました。

結果、双子の兄弟で同じ学校に行くことになり、今度は「中学校でトップにたつてやる」という気持ちで、2月の受験終了後から早速勉強を開始しました。



まずラジオ基礎英語。そして漢字、算数もやりました。

そうしているうちに5月の中間試験を迎えます。

結果、双子で1位と3位でした。**学年203人のなかでトップ**になったのです。

それから中学3年間、ずっと10位以内でした。学校の担任からも「将来は東大だね」と言われて、気分よく過ごしました。

しかし高校で少し油断して30位以内に後退しました。

さらにその後、私は大学受験でも受験した8校すべてに失敗し、現役時はどこにも受かりませんでした。自分のレベルを過信していたのですね。甘さを反省し、邪念を捨て、浪人し再チャレンジしました。

そして結果的に、ようやく目標になって、早稲田・慶應など多くの学校に合格できたのです。

私は中学受験と大学受験の失敗を経て多くのことを学びました。

いまでもあのときの受験の失敗は、生きるうえでの原動力になっていると思います。

後悔は一切していません。

さて、これを読んでいるあなたへ。

人間は、失敗からしか学べません。

成功から得るものよりも失敗から学ぶことのほうがはるかに大きいということを知ってください。

それはなぜか。

失敗すると人はその原因を考えようとします。そして次はそれを回避しようと、自動的に行動するものです。それが成長につながるのですね。

受験で全部合格したひとは、もっと大きな壁に突き当たったとき、それを超えられないかもしれません。しかし不合格という経験をしたひとなら、**壁を壁と思わない**でしょう。

大切なのは足跡よりもむしろ足そのもの。

受け入れてくれた学校が1つでもあるのなら、その学校に進むべきです。

そこが**自分に一番ふさわしい学校だ**ということが、入試の結果、わかったのです。

そのことを認め、受け入れ、あなたを待っている学校へ、進んでください。

きっと、うまくいくでしょう。

これから先まだまだ、長い人生が待っています。

本当の勉強は、これから始まるのです。

終わりは、始まり。

さあ、また新たな一步を踏み出しましょう！

応援しています。

